

三陸の海を放射能から守る
岩手の会

三三通信 第34号

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2007 (平成19)年

3月 10日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX

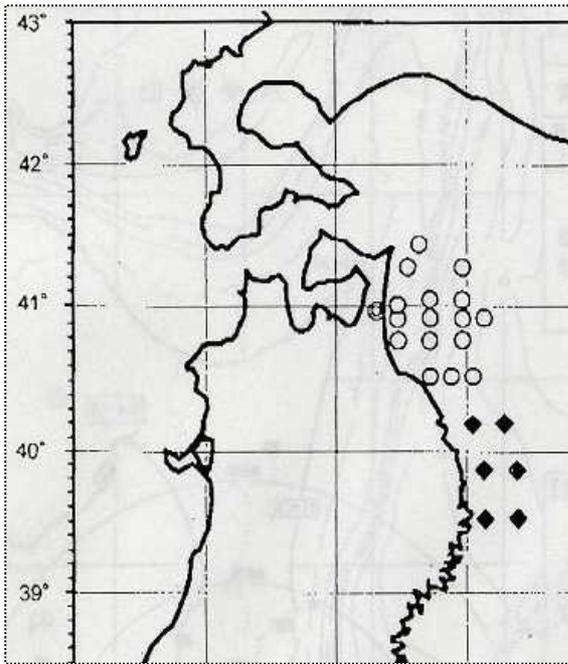
019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

岩手県沖放射能調査の万全を 漁業の安全のための実効ある調査を

これまでの調査地点
拡大される調査地点



新観測海域の六地点
新聞報道によると拡大される新観測地点は久慈市沖、山田町沖、久慈と山田の中間地点沖に二地点ずつの計六箇所としてあります。この地点がどの程度の沖合なのか、沿岸

に近いか不明ですが、湾内養殖についても確実に監視出来る地点が望まれます。
調査項目はどうか
調査項目については海底土、海水、海洋生物の三項目で、海水、海産物は年二回、海底土は、

文部科学省は、二〇〇七年度から、青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場から排出される海域の放射能調査の範囲を、従来の青森県沖から岩手県沖にも拡大するとしました。
これまで、「核燃施設沖合海域調査」は、青森県沖を中心に十六地点でしたが、来年度から岩手県沖に六地点が新たに追加されます。

「海洋環境放射能総合評価事業」
文部科学省の「海洋環境放射能総合評価事業」は、漁場環境の安全確認のために一九八三年から行われていました。同省が、関係省庁と四七都道府県等の協力を得て集約している「環境における放射

年一回の調査としています。海産物については、対象海域の漁獲物を漁協から購入し、サケ、サンマ、スルメイカ、マダラ、アイナメの五種類の予定とされています。対象核種はトリチウム、プルトニウム239、同240、セシウム137、ストロンチウム90など海水で十核種、海産物、海底土で九核種としています。
この調査項目について、沿岸部養殖の安全のためには、移動性の少ないエビやカニ、そしてアワビ、ホタテなどの貝類も是非必要です。また、核実験などに由来する人工放射能と区別するために、特にプルトニウム238を測定し、239、240との「量的割合」による発生源の特定が要求されます。

「六ヶ所核燃施設の安全協定によるモニタリング」とともに、厳密、正確な測定が望まれます。

第三ステップ開始 に抗議文 「岩手の会」など七団体

一月二六日、「三陸の海を放射能から守る岩手の会」「豊かな三陸の海を守る会」など岩手県内七市民団体は、大量の放射性廃棄物を下北の海に流しさらに二九日からアクティブ試験第三ステップを開始するとして日本原燃(株)へ、即時中止要求の抗議文を送りました。
抗議文では、十一月の放出は、原発の濃度規制値の約一四〇〇倍に達する日もあり、生態系への影響が心配され、第三ステップへの突入は許されないとし、岩手県民への説明を求めました。

「六ヶ所核燃施設の安全協定によるモニタリング」とともに、厳密、正確な測定が望まれます。



六ヶ所村へ要請・山梨「考える会」代表メンバー（「生活と自治」より）

全国保険医団体連合会 住江憲勇会長 青森県へ再処理工場 操業中止要請

青森県の各新聞が伝えるところによると、全国約十万人の医師や歯科医師でつくる全国保険医団体連合会（保団連）の住江憲勇会長は二月二十八日青森県庁で記者会見し、六ヶ所再処理工場から放出される放射性廃棄物は国民の健康に悪影響を及ぼす恐れがあるとして、同工場の操業中止を訴えました。要請事項は、高レベル放射性廃棄物の最終処分の見通しがつく前は操業開始を認めない、環境中に放出される放射性

核燃料の再処理やめて！ 山梨県生活クラブ生協（考える会）が 青森県と六ヶ所村 近隣四市町村へ要請行動

生活クラブ生協の機関紙「生活と自治」（二月号）が報ずるところによると、生活クラブ山梨では、青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場の稼働は、安全な消費生活を脅かすものとして「考える会」を結成し、学習会や署名活動を行い、青森県まで代表を送り要請行動を行いました。

廃棄物を回収・除去する装置を設置する。海洋中への放射性廃棄物の放出日時を公表する等、六項目。青森県や日本原燃にその取組みを求めました。保団連は一月に開催した代議員会で、再処理操業に反対し、核燃サイクル計画の抜本的見直しを求める特別決議を採択しています。

会場で住江会長は「様々な事故・トラブルが試運転段階で起きており、再処理操業には大きな懸念を抱いている。全

国的な問題であり、青森県民や国民に被害が及ばないように、徹底的な安全・安心対策を講じてほしい」と強調しました。青森県側は、要請は知事に伝える。安全性については国が審査している」と回答しました。安全協定はどこに行つてしまったのでしょうか。

の交付金がなければ「第二、第三の夕張市」になりかねない財政状況がある」などの話が出たといふことです。

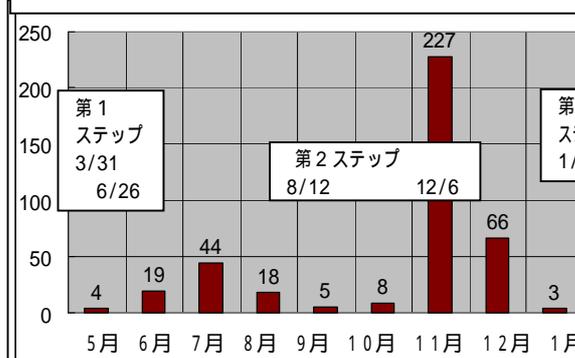
九月から始めた「運転中止を求める署名」は十二月上旬で四八〇〇筆に達し、十二月十一、十二日の二日間、同会副実行委員長の上野すみ子さんら四人のメンバーが青森県と六ヶ所村、さらに近接四市町村を訪れ、要請行動を行いました。

市町村との懇談では、複数の自治体関係者が「放射能による健康や環境への悪影響、農業、漁業などの基幹産業へのダメージを強く恐れている。その一方で、原子力関係

青森県庁では、エネルギー総合対策局を訪問。再処理工場の運転中止を強く訴え、青森県から遠くに住んでいる私たちでも、この問題は消費者として見過ごせない問題です。だから、青森県まで出かけてきました。放射能は人類と共存しえない青森県としても放射能の危険性など事実を正確に県のホームページなどで県民に伝えてほしい」と訴えました。

同生活クラブでは、二月二日に、甲府市の近くの敷島町で約一三〇人

六ヶ所再処理工場 1月の放射能放出量
トリチウム 3兆3000万ベクレル
ヨウ素129 290万ベクレル



月別放出量 (06.4~07.1)
トリチウム 単位 兆ベクレル
(株)日本原燃ホームページ「月別報告書」

* 一月の放出回数二回 十一日 十三日

を集めて、六ヶ所再処理工場の廃止を訴える作家、広瀬隆氏を講師に学習会を行いました。学習会では、環境への放射能放出をやめさせようとする熱心な議論がなされ、署名活動は今年八月まで続けることができました。

青森県保険医協会 水俣病から 核燃問題を考える 講演会

日時：三月二十四日(土)
十四時～十六時半

場所：弘前文化センター

2F 一、二会議室
弘前市下白銀一九一四
電 0172
(NHK向い)
(33) 6571

参加料 無料

講演1 (七〇分)
「水俣病の真実」水俣はまだ終わっていない」
講師 藤野 紘氏
(水保協立病院 名誉院長)

講演2 (五〇分)
「青森県・三陸の大气と海に迫る放射能汚染」
講師 小山英之氏
(美浜の会代表)